

学生防災・防犯 マニュアル



大阪市立大学

はじめに

1995年（平成7年）に発生した「阪神・淡路大震災」においては、大阪市でも大きな被害を被りました。日頃からの災害に対する心構えの希薄さや設備の整備や物資の備蓄が個人や地域、自治体においても不十分であったことが一つの要因とされ、その教訓を生かし、今日各種の防災計画が策定され、施設の耐震整備も進められているところです。

大学においても「安全で快適な教育・研究環境」の確保が重要であるという観点から、いつ発生するかわからない地震をはじめ、火災や風水害などの被害を未然に防止し、また万一発生したときでも被害を最小限にとどめる様々な取り組みを進めているところです。

また、近年、「池田小事件」や「寝屋川小事件」など、学校内において凄惨な事件が続発し、「学校の安全」に対する市民意識が高まるとともに、一人暮らしの学生を狙った空き巣や、痴漢、盗撮、ストーカーなど様々な事件が連日のように新聞で報じられています。

このマニュアルは、学生の皆さんが、安全に安心して教育・研究・課外活動さらには快適な日常生活を送れるよう、震災や火災、風水害などの災害に迅速かつ的確に対応するために、また犯罪、事件などに巻き込まれないために、学生生活における注意事項や具体的行動を定めたものです。内容をよく読んで「いざ」という時に備えましょう。

INDEX

I 地震	2
II 火災	8
III 風水害	11
IV 犯罪	12
AEDの使用方法と設置場所	15
避難に適した場所（杉本キャンパス）	17
防災チェックリスト（避難袋の中身）	18
119番通報メモ	19
緊急連絡先	20



I 地震

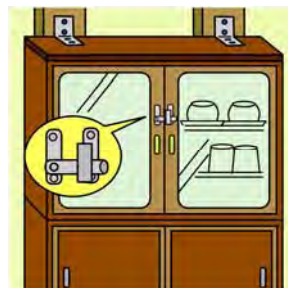
地震はいつどこで起こるかわからない。日常生活すべての場面において、地震が起こったときの自己の行動をイメージすることに努めること。また、避難路や避難場所は常に確認しておくこと。

自宅においても、家具などの転倒防止措置や非常用飲料水、非常食や非常用持ち出し品を常備しておくなど、緊急時に備えておくこと。

地震発生時には、まず自分の身の安全を確保するよう努める。

どんなに大きな地震でも、大揺れは1分程度でおさまる。揺れがおさまるまで冷静に待機すること。また、常に周囲と声をかけあって集団で行動すること。

地震鎮静後、自己及び家族の安全が確保された後は、地域や行政などが募集するボランティアに積極的に参加すること。



キャンパスにいる時

【発生時】

① 教室等にいるとき

- ・ あわてて外へ飛び出さない。机の下などに身を伏せ、机の脚を押える。
- ・ 周辺がパニックに陥りそうなときは、「落ち着け」「机の下にもぐれ」など、大きな声をかけあう。
- ・ 身を隠す場所がない場合は、できるだけ転倒物や落下物の危険がない広い場所で衣服や持ち物などで頭を覆いかみこみ、落下物から身を守る。
- ・ 窓ガラス付近はガラスが割れて飛散する場合があります。危険。ブラインドやカーテンを閉め急いで窓際から離れる。
- ・ ドア付近にいた場合は、ドアを開け出口を確保する。
- ・ 体育館にいる場合は、安全な場所に集まってしゃがみ、落下物に注意する。





② 実験中

- ・ 「火を消せ」と声をかけあい、すぐに火の始末をする。電気機器などの電源は切る。ポンペを閉めて危険なガスの流出を防ぐ。ただし揺れが大きく、火の始末が不可能な場合はまず身の安全を図る。
- ・ 火災が発生した場合は、大学内では消火は基本的には教職員があたるのでその指示にしたがい、揺れがおさまったら避難を行う。

③ 廊下、階段にいるとき



- ・ 壁が倒れてくる可能性があるので、壁には寄らず、できるだけ教室に避難して机の下にもぐる。
- ・ 教室がない場合は、蛍光灯などの下から離れ、衣服や持ち物などで頭を覆いかみこむ。
- ・ 渡り廊下や階段を通行中の場合は、すみやかにそこから離れ、安全な場所に退避する。

④ エレベーターに乗っているとき

- ・ 最寄の階のボタンを押して、停止した階で降りる。
- ・ 途中で停止した場合は、非常ボタンやインターホンで外部に救助を求める。



⑤ 屋外にいるとき

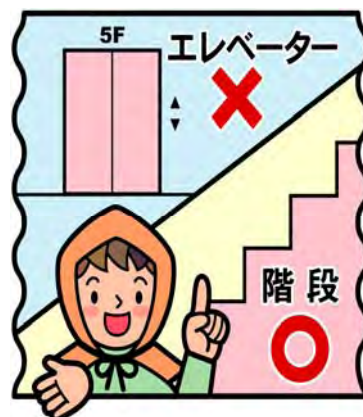
- ・ 速やかに建物、高い壁、送電線等から離れる。

【避難】

- ・ 教室にいる場合は教職員の指示に従って避難する。あわてて出口に殺到しない。
- ・ 授業中であれば、教員を中心にひとかたまりになって、その他の場合でも声をかけあってできるだけ集団で冷静に避難する。



- ・ 大きな地震には余震がある可能性が高いため、大きな建物の周囲は避けてグラウンドなどの広い場所に避難する。
- ・ 落下物や機械類、棚等の転倒、地震による段差や陥没などに十分注意しながら速やかに避難する。
- ・ 避難は徒歩で、持ち物は最小限にとどめること。
- ・ 身障者や負傷者がいる場合は、手助けしながら避難する。
- ・ 重症等により避難できなかった人や行方不明者がいる場合は、教職員にすぐ連絡する。
- ・ 室内では壁伝い、廊下では中央を通る。エレベーターの使用は厳禁。必ず階段を使用する。
- ・ 停電している場合は、緑色の誘導等を目印に避難する。
- ・ 避難場所においては、けが人等に対して医師などの応援が駆けつけるまで、できる限りの応急措置を施す。



キャンパス以外にいるとき

【発生時】

① 乗り物に乗っているとき

- ・ 急停車に備え、つり革・手すりなどにすぐつかまる。
- ・ 停車しても、勝手に非常コックを使って車外へ出たり、窓から飛び出したりせず、乗務員の指示を待つ。
- ・ 特に地下鉄などは、線路横に高圧電流が流れており極めて危険。



② 地下にいるとき

- ・ あわてて出入口に殺到せず、いったん壁や太い柱に身を寄せ、係員の指示に従う。
- ・ 停電になっても非常用照明灯がすぐつくので、落ち着いて行動する。
- ・ 出火がある場合は、近くの消火器ですばやく消火する。
- ・ 地下での火災は煙や有毒ガスが充満しやす



く危険である。ハンカチなどで鼻と口を覆い、体をかがめて這うように壁伝いに煙の流れる方向へ避難する。

③ 路上にいるとき

- ・ その場に立ち止まらず、衣服や持ち物などで頭を覆いながら近くの空地、公園や頑丈そうなビルの中へ避難し、落下物からの危険を回避する。
- ・ ブロック塀や自動販売機など設置物のそば、ビルの壁際などへは近づかない。
- ・ 垂れ下がった電線には近づかない
- ・ 崖や川べりは、地盤が緩み崩れやすくなっている場合があるので近づかない。
- ・ 地面の亀裂、陥没や電柱、塀等の転倒に注意する。



④ 自宅等にいるとき

- ・ 基本的には、教室等にいるときと同様に、あわてて外へ飛び出さず、机の下等に身をかくし揺れがおさまるのを待つ。
- ・ 足元の散乱物や落下物に注意して避難などの対応を行う。



【避難】

- ・ 自宅が危険な状態になった場合は、近隣の避難場所へ避難する。
- ・ 服装は活動しやすいもの、携帯品は必要なものだけにしてお後は背負うようにする。
- ・ 可能であれば、ヘルメットや厚手の衣服、手袋などを着用して避難する。
- ・ 避難は徒歩で行うこと。
- ・ 避難にあたっては、ブレーカーを切り、自分の避難先を家の前にメモで張り出しておくこと。



避難後について



- ・ ラジオやテレビ、インターネット、携帯電話などからの確かな情報を得て行動することが肝要。決して誤った不適切な情報に惑わされたり、広めたりすることのないように心すべき。
 - ・ 自分の身の安全が確保された後は、近隣の消火活動や救護活動に従事する。
 - ・ 時間経過とともに、各地域避難所において救援物資の分配や要介護者支援などの業務が生じてくるので、こういった活動に積極的に参加する。
- ・ 大学においては、災害対策本部が設置され、適宜情報が流されていくので、インターネットなどを通じて大学情報は常に収集に努め、大学でボランティアの募集等があれば可能な限り参加する。



学外で被災した場合は、自己の安否について各学部事務室へ電話、メール等により報告しましょう。

Ⅱ 火災

「早く知らせる」「早く消す」「早く逃げる」が火災の被害を最小限に食い止めるポイント。日頃から消火器や火災報知機などの配置場所、複数の避難路などを確認しておくこと。自宅においても消火器など最低必要な設備は常備しておくこと。

初期消火は大事。しかし大量のガスが発生したり、火が天井まで広がったら躊躇せず避難すること。



【早く知らせる】

- ・ 「火事だ！」と大声で叫んで周囲に早く知らせる。
- ・ 守衛室や事務室へ火災の状況を連絡する。
- ・ 消火不可能な場合はあわてず正確に119番通報を行う。火災発生の建物の所在地と名称、状況を伝える。
- ・ 大学においては、非常ベルを押すと、報知器のベルが鳴り、消火栓ポンプが始動し、発火場所が事務室等に伝わる。



【早く消す】

- ・ 初期消火は非常に重要。可能な限り、消火器、バケツ等により初期消火にあたる。（大学内では消火は基本的には教職員があたるのでその指示にしたがう）



- ・ ガスの元栓を閉じ、火元からできるだけ離れた位置で電源を切る。周囲の燃えやすいものをすばやく除去する。
- ・ 被服に着火したときは、手や有り合わせのものでみ消すか水を被る。さらには床に転げてもみ消す。

- ・ 廊下の防火扉を閉めるときには、大声を出して通知し、内部に人がいないことを確認する。



【早く逃げる】

- ・ 天井が燃え始めたり、ガスが発生したりした場合は消火を断念し速やかに避難すること。
- ・ 授業中、火災が発生したときの避難にあたっては必ず教職員の誘導、指示に従ってかたまって避難すること。また、避難後、逃げ遅れた者がいる場合はすぐ教職員に連絡する。
- ・ 避難場所で人数確認を行う旨教員が指示した場合は、勝手に避難場所から離れない。
- ・ 避難するときは、ガスの元栓や電源を止め、危険物の除去を行い、内部に人がいないことを確認して扉を閉める。
- ・ 廊下での避難方向は、煙の流れを見て風上へ逃げる。タオルやハンカチなどを口に当て、姿勢をできるだけ低くして避難する。
- ・ 屋内階段は煙の通路となり危険が多い。できるだけ屋外の非常階段を使用する。エレベーターは使用しない。
- ・ 非常階段や非常梯子が使えないときは、窓を開けて大声で救助を求める。



※エレベーター使用禁止！



日頃から火気の取り扱いに注意するなど、防火意識の徹底を！



火気厳禁



Ⅲ 風水害

台風は規模や襲来時間などを事前に予測することができる。正確な情報はやく知って台風通過に備え、通過中は外出しないこと。また、集中豪雨等により避難勧告が出されることもあるので、テレビ等からの情報収集は怠らないこと。

地震と同様、普段から非常用持ち出し品の準備をしておくこと。台風接近時には外出を控え、飛びやすいものは屋外に置かず戸締りを厳重に。



【台風時等の授業】

「大阪府に暴風警報」が発令された場合の授業は原則休講。ただし、警報解除の時刻により全部または一部の授業を行うので注意する。また、状況によって警報発令の有無にかかわらず特段の決定を行うこともある。

授業が休講となった場合は課外活動も控える。



第一部

警報解除の時間	休講となる時限	授業を行う時限
午前7時以前		全時限
午前10時以前	1・2時限	3・4・5時限
午前10時を過ぎても解除されない場合	全時限	

第二部

警報解除の時間	休講となる時限	授業を行う時限
午後3時以前		全時限
午後3時を過ぎても解除されない場合	全時限	

- ・ 昼間、途中の授業から休講となった場合は、帰宅に際して強風、豪雨には十分注意し速やかに帰宅する。
- ・ 台風通過後も増水した河川や、がけ崩れの可能性がある急な斜面などには近づかない。



IV 犯罪

盗難や空き巣、痴漢、ストーカーなどの事件が増えている。特に一人暮らしの学生が狙われやすい。自己責任で様々な危険を回避できるよう、日頃から防犯意識を強く持ち、駆け込み場所や交番の確認、防犯ブザーの携帯、玄関・窓の常時施錠など安全対策を怠らないこと。

また、学生証など個人情報の管理を徹底し、インターネットなどにより不用意に自分の個人情報が流出しないように注意すること。

【ひったくり】

- ・ 特に夜間は人通りの少ない道は避ける。自宅の近所でもできるだけ明るく人通りがある道を通る。
- ・ 自転車のかごはカバーをつけるか、かばんの上を雑誌等でカバーする。
- ・ 歩くときはかばんは車道と反対側に持つ。銀行等で現金を下ろした後は特に注意する。
- ・ 歩きながらの携帯電話の通話やメールは控える。
- ・ 凶器を持っている犯人もいる。無理に奪い返そうとしたり、犯人を捕まえようとするのは危険。
- ・ 被害にあったら大声をあげ、直ちに警察に通報する。



【空き巣】

- ・ 玄関や窓の施錠はしっかりと。ピッキング対策済みの鍵がベスト。
- ・ ポストに郵便物や新聞がたまっていると不在であるサインになる。毎日確認すること。旅行等で長期不在となる場合は新聞配達を停止するように。
- ・ 自転車は所定の場所に必ず施錠して駐輪する習慣をつける。
- ・ 万一侵入された時に備えて、被害を最小限にとどめるために現金、通帳、印鑑は分けて保管する。保険証や学生証なども借金などに悪用される危険があるので注意する。
- ・ 最大の防犯は、隣近所の入居者同士のつながり。いざというときお互い助けあえるよう、普段からコミュニケーションを怠らない。



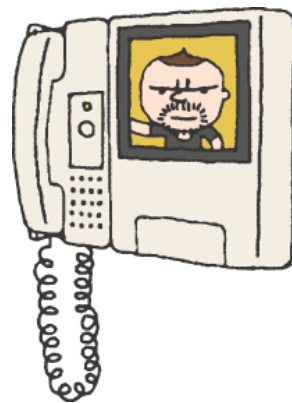
【不審者】



- ・ 在宅中に進入されたら密室状態になる。在宅中でも鍵をかけること。
- ・ 見知らぬ来訪者にはインターホンで対応。宅配便等でドアを開ける必要があればドアチェーンを使用する。
- ・ オートロックを開けるときは、関係のない人は通さない。また、鍵を開けるときは背後に注意する。
- ・ 侵入者がいる気配を

感じたら部屋に入らない。

- ・ 深夜のエレベーターは危険。不審者が乗ってきたらいったん降りたほうが賢明。
- ・ 大学で不審者と遭遇しても、凶器を持っている可能性もあるのでまず身の安全を確保し、一人で対応しないで教職員、守衛室に通報する。
- ・ 凶器を振り回すなど緊急を要する場合は迷わず警察へ通報する。



【痴漢・ストーカー】

- ・ 便利な乗車場所の車両など込んでいる車両は避ける。時には乗る時間や場所を変える。
- ・ 痴漢に遭った場合は勇気を出して周囲に訴える。すぐに駅員や警察や届け出る。
- ・ 痴漢かどうか確信がもてない場合は、一旦降りて車両を変えたり、次の列車に乗り換える。
- ・ エスカレーターや階段下付近では盗撮犯が機会を狙っていることがある。日頃から不審な挙動の人がいないか注意する。
- ・ ストーカーの被害を防ぐためには、相手に生活パターンを読まれないようにする。明細書や手紙など個人情報がある書類を捨てるときは、シュレッダーを使用する。
- ・ ストーカーの被害にあった場合は、ひとりで悩まず家族や警察など信頼のおける人に相談する。



私たちの行動で救える命があります



救急隊が到着するまで救命処置を続けましょう

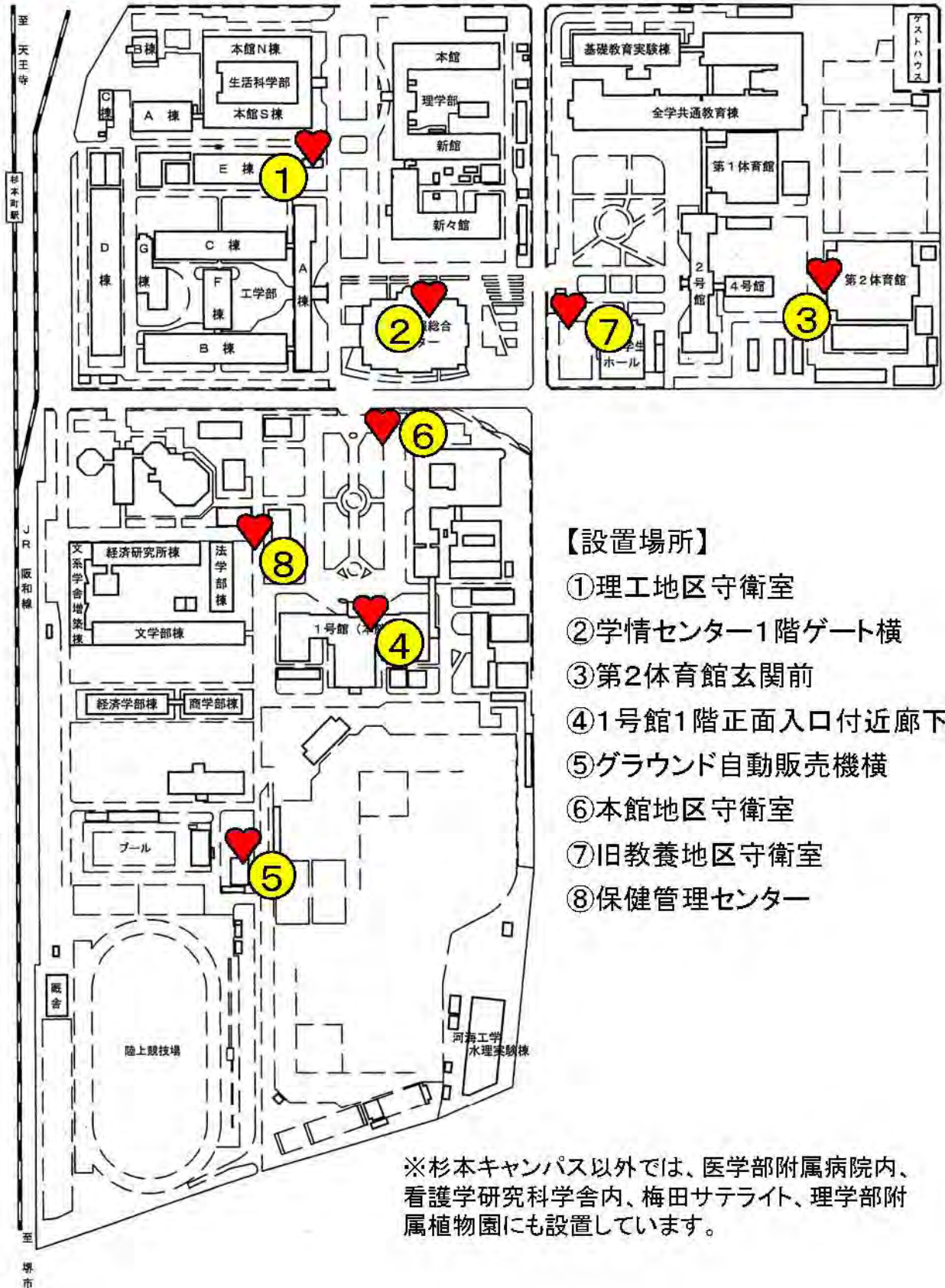
自動体外式除細動器“AED”を設置しています

突然倒れて死に至る、その原因の多くは心室細動という心臓の病気です。この唯一の治療は「除細動器」という装置で電気ショックをかけること。処置が遅れるほど、時間とともに救命率が下がってしまいます。一刻も早い処置が不可欠です。

問い合わせ先
保健管理センター 06-6605-2108



AED(自動体外式除細動器)設置場所

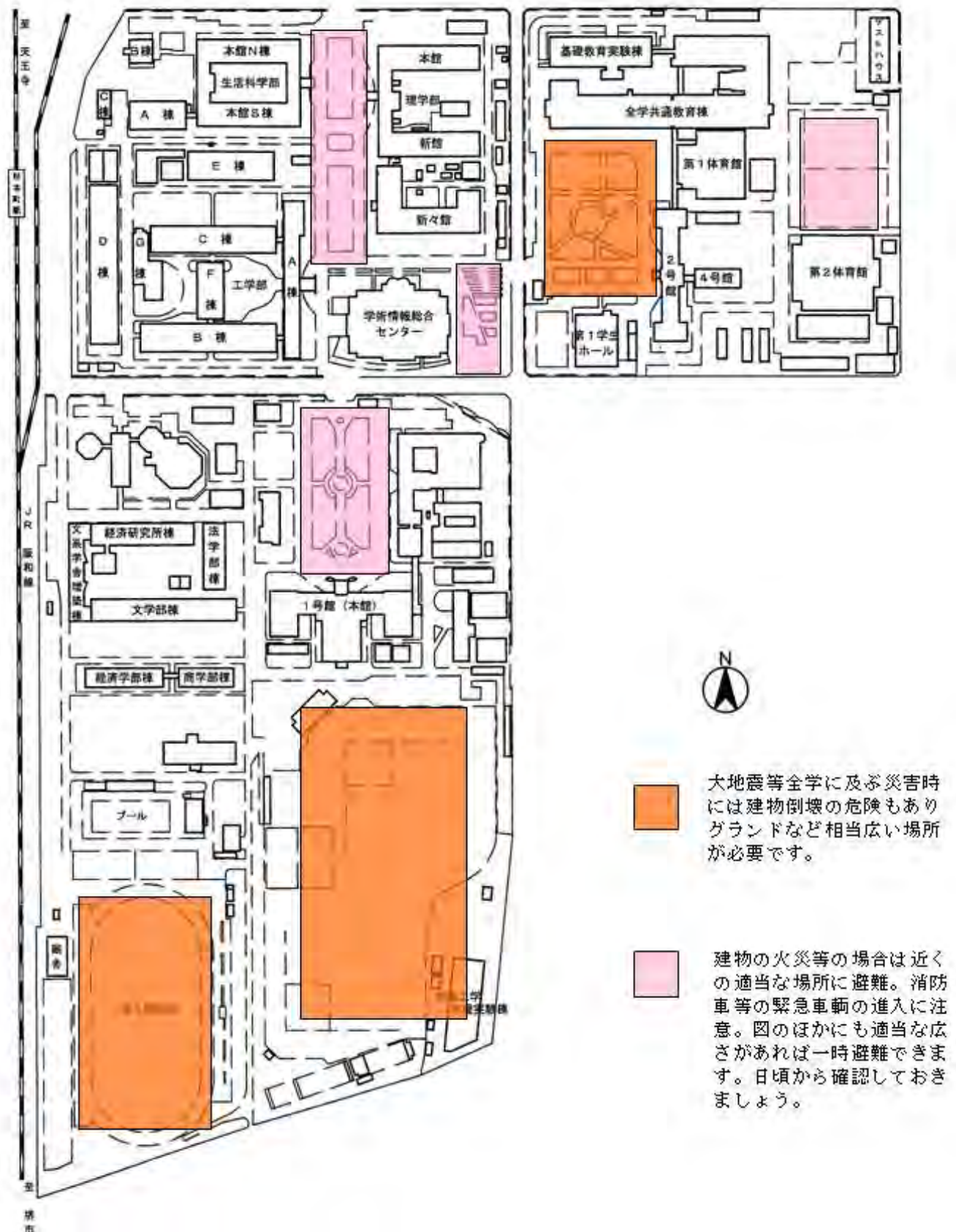


【設置場所】

- ①理工地区守衛室
- ②学情センター1階ゲート横
- ③第2体育館玄関前
- ④1号館1階正面入口付近廊下
- ⑤グラウンド自動販売機横
- ⑥本館地区守衛室
- ⑦旧教養地区守衛室
- ⑧保健管理センター

※杉本キャンパス以外では、医学部附属病院内、看護学研究科学舎内、梅田サテライト、理学部附属植物園にも設置しています。

避難に適した場所(杉本キャンパス)



防災チェックリスト

非常袋の中身

□品名 / 数量	□品名 / 数量	□品名 / 数量
食料品		
□飲料水(賞味期限 /) /	□懐中電灯 /	□下着 /
□乾パン(賞味期限 /) /	□ローソク /	□上着 /
□カップラーメン(賞味期限 /) /	□ライター・マッチ /	□靴下 /
□缶詰 (賞味期限 /) /	□クイックコンロ /	□ハンカチ /
□チョコレート /	□コンロ用燃料 /	□タオル /
□あめ玉 /	□缶切り・栓抜 /	□ヘルメット・防災頭巾 /
救急セット		
□ばんそうこう	□紙皿、紙コップ、箸 /	貴重品
□消毒薬	□ナイフ /	□現金(円) /
□ガーゼ	□滑り止め付軍手 /	□通帳・印鑑 /
□包帯・三角巾	□ロープ /	□健康保険証コピー /
□体温計	□レジャーシート(帖) /	□免許証コピー /
□ピンセット	□ビニールレインコート /	□重要書類コピー /
□はさみ	□ティッシュペーパー /	-----
□風邪薬	□生理用品 /	-----
□胃腸薬	□携帯ラジオ /	-----
□鎮痛剤	□携帯電話用持運充電器 /	□メディカルアラートカード /
□常備薬()	□乾電池(単 型) /	□緊急連絡簿 /
□常備薬()	□乾電池(単 型) /	-----
	□ゴミ袋・ビニール袋 /	-----

※備考

チェック実行日 年 月 日



119番通報メモ

落ち着いて用件を
ゆっくり正確に伝えましょう

あわてず ゆっくり **119番**



火災の時
「火事です」



急患の時
「救急です」

現場の住所を伝える

市 町 丁目 番地 号

建物名称

火災の状況

「どこが」

燃えています

病気、ケガの状況

「誰が」

さんが

「どのような」

状態です

目標となるものを伝える

近所には

あります

連絡者名/連絡先を伝える

名前

電話番号 () -

通報終了 お疲れ様でした

※このメモに連絡先などを事前に記入して電話機の前などに貼り付けておきましょう

緊急連絡先

消防署（火災・救急）	局番なし119
警察	局番なし110
災害用伝言ダイヤル	局番なし171



大学（杉本キャンパス）

総務課安全衛生管理担当	(06) 6605-2097
学生支援課学生担当	(06) 6605-2101
学生支援課教務担当	(06) 6605-2131
保健管理センター	(06) 6605-2108
商学部事務室	(06) 6605-2200
経済学部事務室	(06) 6605-2250
法学部事務室	(06) 6605-2300
文学部事務室	(06) 6605-2350
理学部事務室	(06) 6605-2500
工学部事務室	(06) 6605-2650
生活科学部事務室	(06) 6605-2800
創造都市研究科事務室	(06) 6605-3507
本館地区守衛室	(06) 6605-2090
理工地区守衛室	(06) 6605-2094
旧教養地区守衛室	(06) 6605-2092
学術情報総合センター警備員室	(06) 6605-3333

大学（阿倍野キャンパス）

医学部事務室	(06) 6645-3611
看護学研究科事務室	(06) 6645-3511



公立大学法人 大阪市立大学

法人運営本部総務課安全衛生管理担当

〒558-8585

大阪市住吉区杉本 3-3-138

TEL (06)6605-2097

大阪市立大学ホームページ <http://www.osaka-cu.ac.jp/>

平成20年（2008年）9月発行



公立大学法人

大阪市立大学

OSAKA CITY UNIVERSITY